

主審の試合進行要領

試合の前に：

試合開始の30分前までに選手及び監督は集合します。前の試合の流れにもより開始が早くなる場合があります（本部が両チームの全員が揃っている事を確認することが前提です）対外試合トーナメントでは集合に間に合わなかったとかメンバー表の提出が遅くなると監督がベンチに入れないなど罰則がありますが、甲北連盟ではその罰則はありません。

本部より各チームのキャプテンに集合の合図があり、キャプテンはメンバー表と試合球2個を持って集まりジャンケンなどにより先攻・後攻を決めます。連盟内のA/B対決ではBが先攻となります。ベンチは若番が一塁側となります。番号はシーズンに先立ち決まります。試合開始の20分ほど前からシートノックを開始しますが、後攻チームから5分間やります。

1. グラウンドの整備

両チームのシートノック後（後攻、先攻の順、各5分）、本部と協力してホームベース付近の整備（ブラッシング、バッターボックスのライン引き直し等）を行う。内野の整備は塁審が行う

2. 選手の集合

- ①両チームの全選手がベンチ前に整列しているか、審判が全員揃っているかを確認した上で「集合」の掛け声で、選手とともにホームベース前に駆け寄る。
両チームがホームベースを挟んで整列できているか確認をする。
- ②試合開始の宣言、注意事項を確認、キャプテン握手、の指示。
「〇〇対XXの試合始めます」
「攻守交代は走って早くしましょう」などの注意。
「キャプテン握手」「礼」

3. 試合中の留意点

- ①投球練習は初回及び投手交代時は7球、他は4球（大会によっては5球、3球の場合があるので、事前に本部に確認しておく）
- ②試合開始は右手を上げて「プレイ」を宣告する。
- ③試合が止まっている状態からインプレイになる時に右手をあげて「プレイ」を宣告する。
* ファウルボール、デッドボール、ボーク、タイムの後（フォアボール(base on balls)はインプレイ)
- ④ストライクとボールの判定
・ ストライクは右手を上げて「ストライク」と大きな声でコールする。三振のときは「ストライクスリー」とコール（バッターアウトはコールしない）
・ ボールはコールしなくても良い。
- ⑤フォアボールはコールするのみ。
デッドボール(hit by pitch)はタイムをかけボールデッドにしてから左手で指示する。
- ⑥ファウルボールは、選手がボールを捕るまで宣告しない。ただしデッドラインを超えた時は直ちに宣告する。宣告は両手を上げて「ファウルボール」
- ⑦内野フライのアウト宣告及び内野におけるファウルの宣告は球審が行う。
- ⑧ホームベースでのクロスプレーのセーフ、アウトの判定は捕手の真後ろで行なわな

い。かならず左右に回り込んで判定する。

4. 試合終了の宣言

「ゲーム、集合」で選手を集合させる。

「キャプテン握手」「礼」

* コールドゲームは4回で10点差、5回では7点差（大会によって異なる）

2009年3月改定